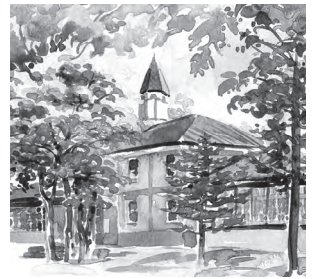


校友会会報

No. 29



酪農学園大学同窓会校友会

2023年1月1日発行

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地 同窓生会館内
TEL (011) 386-1196 FAX (011) 386-5987
E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp HP https://kouyukai.rakuno.org

発行 酪農学園大学同窓会校友会
印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

同窓会の目的を改めて思う

酪農学園大学同窓会校友会 会長 ^の野 ^{えいじ}英二

はじめに

会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃から酪農学園大学同窓会校友会に対し、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2020年2月のさっぽろ雪まつり後の新型コロナ感染拡大に伴い北海道に独自の「緊急事態宣言」が発出されました。これ以降、社会生活において活動自粛を余儀なくされ、また、いくつもの感染拡大の波に見舞われました。現在も感染者数は多い状態で推移していますが、徐々に行動規制も緩和しつつあります。皆様においては油断なくお過ごし頂きたいと思っております。

校友会活動

理事・代議員会が2022年5月13日に対面形式で開催されました。2022年度の主な事業計画は、在学生への支援（テイクアウト丼の提供、10月実施）、卒業パーティーへの助成などです。本年度は3年振りにホームカミングデーを7月2日に実施しました。記念礼拝と記念講演会の2部構成で実施しました。しかし、合同周年記念同期会は、新型コロナウイルスの拡大の波が繰り返されている状況下にあることから、本年度も延期にしました。

ホームカミングデーの運営は校友会が担っていましたが、学園全体の行事であることから今年は酪農学園同窓会が中心となって運営し、次年度からの運営については酪農学園に移行したいとのことで関係者と調整中です。2023年度も開催予定ですので、多くの方々の参加をお待ちしています。また、3年続けて休止した合同周年記念同期会は2020・2021・2022・2023年度対象の同期会を開催するように検討しております。

厳しい酪農学園大学・酪農家

現在、国内の酪農家は深刻な窮状下に追い込まれています。飼料の高騰、牛の価格下落などで経営の存続が危惧されているところもあります。業界団体の調査では、今の状況が続けば酪農家の55.8%が経営を続けられないと答えております。酪農の振興と発展を目指して設立された酪農学園の卒業生としても心痛の思いです。より一層、牛乳・乳製品を消費することで、酪農家への支援となればとの思いです。

また、酪農学園大学の2022年度入学者数は、定員よ

りも77名減の623名でした。特に、循環農学類と食と健康学類の減少が顕著です。同窓生の役割として、建学の精神の啓蒙、母校の受験生増加に寄与することです。より一層のご協力をお願いいたします。



感動の出来事

大学一期生（酪農学科1960年入学）の同期会がホームカミングデー開催日と同日に“傘寿記念同期会”と称して開催されました。祝会は3時間にわたり、余興や近況報告などで大変にぎやかで活気がありました。また、大学一期生との交流も有意義でありました。2023年度開催予定の合同周年記念同期会には、多くの方々の参加を願っています。

昨年7月に1949年度野幌機農高等学校卒業生（故K氏）のご遺族（奥様、東京都在住、と3人のお嬢様）が学園を訪問されました。訪問に至る経緯とその目的に大変感動いたしました。K氏は1947年興農義塾野幌機農学校に入学され、学園での教育（生活）は、卒業後の人生に大きく影響したとのこと。特に、キリスト教と生涯寄り添い、聖書を人生の規範とするなど、酪農学園の建学の精神を体得した人生であったようです。K氏の母校である酪農学園を是非訪問し、ご主人の学び舎を肌で感じたいとのことでした。K氏は、在学中の2・3年次には希望寮（第5寮：現酪農ステーション牛舎）で過ごされております。感慨深い出来事でしたので、皆様に披露させていただきました。

なお、当時の酪農学園の動きは以下のとおりです。1942年、現在地に興農義塾野幌機農学校を開校、1946年財団法人興農義塾野幌機農学校理事会は「教育の指導理念をキリスト教の聖書に置く方針」を決定、1948年学制改革により、野幌機農高等学校に校名変更。1949年財団法人興農義塾野幌機農学校の名称を「財団法人酪農学園」に変更。

おわりに

まだまだコロナ禍の状況下にあります。ご健康に留意の上、安心・安全に過ごされることをお祈りいたします。また、今後とも同窓会運営・活動に対し、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■循環農学類の近況

新品種、紫アスパラガスの名称を
「RG 紫色舞ファースト」と「RG 紫色舞ルーチェ」で登録循環農学類長 いのうえ 井上 せいじ 誠司

同窓生の皆さま、コロナ禍の収束が見通せず、不慣れた生活を強いられる状況が続いていますが、お元気でお過ごしでしょうか。われわれ学類教員一同も様々な制約を受けざるを得ない状況にありますが、多くの方々の温かいお力添えのおかげで、教育・研究に集中することが可能となっています。

さて、まず教員の異動について報告いたしましょう。2021年度末をもちまして、玉川真弓教授が退職されました。環境会計研究室に所属されていた玉川先生は、環境問題について会計学的にアプローチするといった手法を用いて研究に取り組んでこられました。業績の多くは都市や産業廃棄物処理場を対象としたケーススタディなのですが、農業についても造詣が深く、中でも農業簿記に関する講義や演習に関しては大変わかりやすいとの定評がありました。農業経営者を志す学生にとって、玉川先生の退職が大きな痛手となったのは言うまでもありません。

一方で2022年4月に、新任の石川志保准教授が着任されました。所属は農業施設学研究室です。石川先生は再生可能エネルギーの創造・活用に関する研究を専門とされており、バイオガスのプラントの運用解析・蓄電制御、酪農施設における省エネルギー化技術の創造に関する研究業績が多数ございます。研究フィールドは国内のみならず、ドイツ、スウェーデンなどのヨーロッパ諸国にも及び、世界各地のバイオガス発電に関する事情に精通されています。それゆえに留学を希望する学生のアドバイザーとしても活躍いただけるのではないかと、期待しております。

続いて、教員および学生の功績を紹介いたしましょう。大学HPでも紹介されていますが、園田高広教授・農食環境学群長（農場生態学研究室）が開発された紫

アスパラガスが新品種として登録されました。名称は「RG 紫色舞ファースト」と「RG 紫色舞ルーチェ」で、その一部に本学の略称である「RG」が含まれています。新ひだか町の農業法人からの要望によりこれらの品種開発に着手されたのは2012年で、以後、研究室に所属する学生とともに栽培・育種・試験を繰り返して行ってきたとのこと。なお、これらの新品種はすでに全国各地で販売されていますので、小売店で目にされましたら、ご購入の上、召し上がっていただけますと幸いです。

もう一点、中小家畜飼養学研究室の山田未知教授と学生による取り組みを紹介いたしましょう。当研究室では三元豚ならびに日本短角牛を育成・肥育していますが、これらの精肉が東日本フード株式会社とのコラボレーションを通じてイオン北海道株式会社のオリジナルギフト商品として販売されました。特筆すべきは三元豚に与えるエサで、その大半は大学周辺の食品工場で発生した残渣を原料とし、学生が栄養バランスを考慮しながら独自に配合して製造されたものとなっています。こうした資源リサイクルに関わる取り組みが、循環型社会の形成に貢献していると評価され注目を集めました。

このように教員の多くが学生とともに、各地のフィールドを活用しながら研究成果を生み出しています。昨年度までは新型コロナウイルス感染拡大の影響により、調査や実習を中止せざるを得ないといったケースに幾度となく直面しました。しかし、本年度は感染防止対策を徹底して行うといった条件付きではありますが、本学類の特色の一つであるフィールドワークを用いた教育・研究の実践が可能となっています。同窓生の皆さまとともに築き上げてきました本学類の

特色ある教育は継続されていますので、どうかご安心ください。また、ご親戚やご近所に本学類の受験を検討されている方がいらっしゃいましたら、入学後、従来どおりフィールドワークに専念できることをお伝えいただけますと幸いです。

末筆ではございますが、同窓生の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。



▲ニセコ町で実施した農業政策学研究室 学生調査のひとこま（2022年7月）

■食と健康学類の近況

受験生にとって魅力的で活発な研究が 展開できるような新しい学類を目指して

食と健康学類長 かねだ 金田 いさむ 勇



相変わらずコロナ禍の影響が続いていますが、少しずつ状況は変わりつつあるようです。2022年度前期は大人数の一部の授業を除いて基本的に対面授業を進めることになり、久しぶりに授業の合間にキャンパス内を学生諸君が行きかう姿が戻ってきました。幸いなことにこの2年間で授業・実習においてクラスターが発生したということもなく、我々教職員も少しずつ自信をもって教育・研究を展開できるようになってきました。

昨年度大きく定員割れを起こしてしまった入試状況ですが、残念ながら2022年度も昨年度と同様の結果に終わり教員一同深刻に受け止め入試広報活動に注力しております。この急激な志願者減の原因については関連部署で調査を進めていますが、もっとも大きな要因は本学類の知名度の低さにあることが明らかになってきました。知名度の低さにコロナ禍による進路決定の変化があいまって現在の状況が生じていると分析しています。いくつかの対策を打っていますが、ここでは二つの取り組みについて紹介したいと思います。一つは附属高校であるとの森三愛高校との共同研究の推進です。昨年度は食品栄養化学研究室とマーケティング研究室が高校生を受け入れて共同研究を行い年度末に大学学生ホールでの研究発表会を開催しました。この共同研究は高校生に大きな反響があり来年度入試では附属高校からの大幅な志願者増につながるといった成果が出ました。今年度も引き続き食品物性学研究室と乳製品製造学研究室で高校生を受け入れて共同研究を進めています。もう一つはSNSによる情報発信です。高校生を主なターゲットとして食品栄養化学研究室の上野敬司先生が中心となって今年度の4月より学生の日々の様子や実験実習、研究室の

活動などの紹介のほか先生方にも登場いただいています。卒業生の皆様にも是非ご覧いただき、懐かしく楽しんでいただければと思います。是非フォローをよろしくお願いいたします。

▼Instagram

https://www.instagram.com/rakuno_shokuken/

▼Facebook

<https://www.facebook.com/rakunoshokuken>

(「食と健康学類」で検索ください。)

教員の異動につきましては2021年度末をもって長村知幸講師(マーケティング研究室)が小樽商大へ転出されました。また若宮伸隆教授(医学・生理学研究室)が任期満了で退職されました。そして2022年4月より若宮教授の後任として北海道大学医学部より山田雅文教授が着任されました。山田教授には基礎医学関連の教育を通して管理栄養士国家試験合格率アップに向けてご尽力いただきたいと考えています。

厳しい入試環境を鑑みて引き続き学群全体で将来計画に関する話し合いが進められています。受験生にとって魅力的であり、活発な研究が展開できるような新しい学類の在り方を教員一同真剣に議論しています。今後とも食と健康学類の教育・研究に格段のご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。



▲食品栄養化学研究室における附属高校との共同研究の実験風景

■環境共生学類の近況

金子正美教授“JICA 理事長賞”を授与、
多大な功績が認められる

環境共生学類長 なかたに 中谷 のぶたけ 暢丈



酪農学園大学同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、本学類の教育研究活動等に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響により、遠隔での授業実施、学外実習の自粛を余儀なくされておりましたが、今年度からは対面授業を基本対応とし、学外実習も学類独自の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底的に行うことで実施しております。学外フィールドで実習を受けている学生の顔は、室内で講義を受けているときも明るく、生き生きとしておりました。その様子を見ると、コロナ禍での我々教員の日々の苦勞も吹き飛び、学外実習を行ってよかったと思っております。

さて本学類の卒業生として、2022年3月に111名、さらに同年9月には8名が社会へ巣立ってゆきました。一方、この4月には118名の入学者を受け入れました。本学類を含めた農食環境学群では、昨年度から定員割れとなっており、この原因として18歳人口の減少、新型コロナなどの影響が考えられておりますが、教職員一同、受験者数ならびに入学者数の改善に向けて、入試広報等に関する様々な取り組みを行っております。

教員の異動につきましては、2021年度末をもって押

谷一教授（資源再利用学研究室）が退職されました。これまでの本学でのご貢献に心より感謝申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を環境共生学類教員一同お祈り申し上げます。

うれしい出来事がありましたので、ご紹介いたします。金子正美教授（環境GIS研究室）が国際協力人材の育成や社会発展に多大な貢献をされたと認められ、2021年12月にJICA理事長賞を受賞されました。さらに、このことは職務上顕著な業績であり、職員の規範と認められ、2022年3月酪農学園職員表彰を授与されました。今年度入学された学生を対象として、金子命助手が学生として本学に入学されて以来、酪農学園大学の構内で観察・収集された植物や動物等600種の情報を編集・解説した「酪農学園生物図鑑」を作成・配布いたしました。この図鑑は学類学生の教育に活用するとともに、無料公開の電子データとして、学内外の方にも広くご利用できるものとなっております。そのほか本学ホームページにて、「ハリオアマツバメの渡り

ルートの解明」（森さやか准教授、環境動物学研究室）、



▲酪農学園生物図鑑と編集・解説した金子命助手

「北海道初の産学連携ドローン教習コース」（小川健太准教授、環境空間情報学研究室）等、学類教員による研究活動を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。今後も、学生の教育研究の充実と発展のため、教員一同努力を惜みず、日々精進していく所存でございます。

酪農学園大学の同窓生諸氏のご健勝を学類教員一同、心よりご祈念申し上げます。引き続き、学類の教育・研究に格段のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



▲新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下での学外実習の様子

■獣医学類の近況

世界基準の新たな獣医学教育を目指して
～獣医学科・学類のあゆみを将来につなげるために～

獣医学類長 ひぐち ひでとし
樋口 豪紀



酪農学園大学同窓生の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より獣医学類の教育、研究ならびにエクステンション活動につきまして、多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

2019年以降、新型コロナウイルス感染症に翻弄された3年間でしたが、ようやく、長いトンネルの向こうにわずかな光も見え始め、学生生活も概ね日常を取り戻しつつあります。引き続き感染対策には万全を尽くしながら、学習意欲に応えられる環境整備に努めて参りたいと思います。

今年度の教員異動についてご紹介いたします。まず、2021年度に退職された先生方です。これまでの本学でのご貢献に心より感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍を獣医学類教員一同お祈り申し上げます。

【退職の先生方】内田郁夫先生（教授・感染病理学分野・獣医細菌学）、大杉剛生先生（教授・感染病理学分野・実験動物学）、中出哲也先生（教授・伴侶動物医療学分野・画像診断学）、川本 哲先生（准教授、生産動物医療学分野・生産動物内科学）、阿部紀次先生（嘱託助手・生産動物医療学分野）、富田彬正先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）、八重樫里菜先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）

2022年度より11名の先生方をお迎えすることができました。着任を心より歓迎申し上げます。

【着任の先生方】尾針由真先生（助教・感染病理学分野・医動物学）、出口辰弥先生（助教・伴侶動物医療学分野・伴侶動物内科学）、中村達朗先生（助教・生体機能学分野・獣医薬理学）、藤本政毅先生（助教・生体機能学分野・実験動物学）、松山亮太先生（助教・予防獣医学分野・獣医疫学）、村上高志先生（助教・生産動物医療学分野・生産動物外科学）、山本集士先生（助教・伴侶動物医療学分野・伴侶動物外科学）、大谷新太郎先生

（嘱託教授・生産動物医療学分野）、蘇武なつみ先生（嘱託助手・生産動物医療学分野）、高木 楓先生（嘱託助手・感染病理学分野）、長谷川寧々先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）

学生の就職状況についてです。同窓生の皆様には就職活動につきまして多大なご支援を頂き感謝申し上げます。2021年度は主な就職状況として小動物臨床66名、産業動物臨床23名、公務員獣医師14名、進学4名でした。この他、民間企業や動物園、水族館にも多くの学生が就職しております。

本学における第73回獣医師国家試験（2021年度）の合格率は82%でした。非常に厳しい数字であり、今年度は「国家試験対応委員会」や「学力向上対応委員会」が中心となり学習環境のさらなる整備拡充を行っております。また、獣医学科同窓会（南 繁会長）にも様々なご支援を頂き、学力向上に向けた取り組みを進めているところでございます。引き続き、学類教員が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

前号でもご紹介致しました通り、現在、獣医学類は欧州獣医学教育認証（EAEVE）の取得に向けて準備を進めております。現在のところ2023年にFV（Full visitation：現地審査）が実施される予定であり、現在は施設設備の拡充や、カリキュラムの展開に関する具体的な作業を進めているところです。特に、本年度から学外実習も本格的に始動し、動物病院や道内外の公的機関より多大なご支援をいただいております。この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。本教育システムの実施にあたっては、同窓生の皆様にもご支援いただくことが多々あろうかと存じます。引き続き、ご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

酪農学園大学同窓生諸氏のご健勝を、教員一同、心よりご祈念申し上げます。

「総合伴侶実習；シェルター動物の避妊・去勢手術の実施～学生主体の実学教育～」



▲動物の安全・確実な保定法について指導する鳥巢至道教授



▲病院獣医師が見守る中、学生同士で指導・確認し合いながらの気管挿管の実施



▲病院獣医師の指導の下、緊張の(初めての)「腹壁縫合」

(伴侶動物医療学分野・佐野忠士先生撮影)

■獣医保健看護学類の近況

地域とのつながりを大切に 酪農学園大学にしかできない教育を

獣医保健看護学類長 かわぞえ としひろ
川添 敏弘



同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より獣医保健看護学類の教育及び研究活動にご協力をいただき感謝申し上げます。

本学類では初年度から一貫して、獣医療現場での高い知識と技術を持った動物看護師の育成に力を入れてきました。そして、2022年3月には8期生を送り出すことができました。主な就職先は、動物病院（伴侶／農業共済組合）がおよそ半数、動物関連企業（製薬会社、ペット保険、ペットショップなど）が40%くらい、その他（進学、学習塾、情報通信業など）が10%くらいとなっています。例年と大きな変化はありませんが、動物病院への就職が減少していることが残念でした。首都圏や関西圏では動物病院での動物看護職の待遇が向上しており、北海道でも期待をしているところです。

本年度、2年間中止となっていた「動物愛護フェスティバル in えべつ」を復活させることができました。江別市獣医師会からバトンを引き継ぎ、酪農学園大学が主体で実施していくことになりました。学類の学生が活躍するイベントの復活を皆が喜んでくれました。残念ながら小雨になってしまいましたが、来年に向けて期待は高まっています。

もう一つ、大学に動物愛護を推進するための動物保護シェルターをつくりました。北海道の実証事業を受ける形で進めており、大変な日々ですが、学生の大きな成長を感じています。シェルターメディスンに力を入れていき、獣医学類の教育と連携していきます。獣医保健看護学類では、放棄された犬猫を適正飼養し、馴致やトレーニングを実施していきます。獣医学類では、様々な検査や不妊手術を担当していただき、一次

診療に関わる技術の向上が期待されています。

その他にも、生産動物現場で活躍できる人材育成も順調に進めています。酪農学園大学にしかできない特徴的な教育の柱として、これからも力を入れていく予定です。また、診療科としての理学療法は、附属動物病院での私たちの教育拠点となっています。さらに中獣医が加わり、今後は行動治療も診療科に加わる予定です。

この2年間、感染症対策のために、縮みがちになっていた学校生活を少しずつ広げることができているように思います。学生たちに楽しい時間、充実した時間をたくさん作ることができるよう教員同士の交流を深めながら取り組んでいるところです。

教育としては、獣医学類が欧州獣医学教育認証（EAEVE）取得に向けて取り組む中、私たちも実習を中心に一部で同様の取り組みを開始いたします。少人数制の実習は教員への負荷が大きく大変ですが、学生たちの参加が積極的になり、チーム獣医療に向けた教育として期待されています。施設も充実してきており、特にスキルスラボ棟では模擬動物を使用し、繰り返し練習を重ねることで獣医療技術や動物看護技術を習得できるようになりました。スキルスラボの模擬動物病院施設で採血やマイクロチップ挿入の練習をする環境が整いつつあります。

私たちは、社会から求められる学類であるために、地域とのつながりを大切にしています。これからも獣医保健看護学類の発展のために努力してまいります。同窓生の皆様においても健康に留意され、ご活躍されますことをお祈り申し上げます。



▲「動物愛護フェスティバル in えべつ」の横断幕をバックに記念撮影する教員と学生スタッフ

今、伝えたいこと

入学者数の現状と確保のための5つの取り組み



酪農学園大学 学長 堂地 修

日頃より、大学の運営および教育研究の推進に多大なご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

大学は後学期が始まり、ひと月が過ぎようとしております。大学構内には学生の姿が多く見られ、活気が戻ってきております。昨年末から再拡大した新型コロナウイルス感染者数は、もっとも多かった8月頃に比べて大きく減少しましたが、まだ多くの感染者数が報告されています。授業・実習は、一部の科目を除いて、感染対策をしっかりと講じた上で、対面で実施しています。感染防止対策および指導は、大学危機対策本部を設置し、学校医の指導の下、看護師・保健師が感染状況を把握し、感染した学生には個別に支援をしております。現在のところ、学内の感染者数は少数で授業や実習中に感染したと思われる例はなく、学生の皆さんは安心して授業を受けることができしております。

入学者数については、昨年度に続いて農食環境学群3学類では定員を満たすことができませんでした。それぞれの不足人数は、循環農学類（定員240名）34名、食と健康学類（管理栄養士コースを除く、定員120名）64名、環境共生学類（定員120名）2名でした。このようなことから、教職員一丸となり、2022年度も入学者確保のための取り組みを強化しております。今年度より総合型選抜試験を導入し、例年より早く入学試験を開始することとしています。また、入試広報活動の強化として、それぞれの学類が分かりやすく教育内容を紹介したパンフレット作成や出張セミナー等に取り組んでいます。さらに新たに入試専門員を全国に配置し、積極的な高校訪問による広報活動を展開するとともに、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、対面とオンラインを併用してオープンキャンパスを開催しております。

今年度も附属とわの森三愛高等学校との高大一貫教育の充実と連携強化を図り、附属高校からの進学者の確保に努めています。大学教員が附属高校に出向いて授業を行ったり、高校生が大学の研究室を訪問したりするなど、活発な活動を行っています。2021年度より大学教員と附属高校教員との共同研究を開始し、2021

年度は「新規造成水田1年目における水稻品種“ななつぼし”の栽培への取り組み」他3件、2022年度は5件の研究課題が採択されました。

獣医学群では、2023年度にヨーロッパ獣医学教育機関協会（EAEVE）の国際認証取得を目指して施設整備および教員採用を進めています。これまでスキルストラボ、諸診療施設などの整備が完了しました。EAEVE認証取得により、国際レベルの獣医学教育が展開されることが期待されます。

循環農学類の園田高広教授の紫アスパラガスの品種登録、環境共生学類の金子正美教授のJICA理事長賞受賞、獣医学類の遠藤大二教授の2件の特許取得など、今年度も学会賞受賞など研究においても多くの成果が得られています。また、フィールド教育研究センター肉畜生産ステーション中小家畜で生産された豚肉が、イオン北海道様の冬ギフト（豚丼及び豚しゃぶしゃぶ）に採用されました。

谷山弘行理事長、西田丈夫常務理事、堂地修大学長、清澤城次附属とわの森三愛高等学校校長の新たな理事会体制が7月1日にスタートしました。今回の3号理事選任手続きに一部問題が生じ、皆様には大変ご心配とご迷惑をおかけいたしました。心よりお詫び申し上げますとともに、今後このようなことが再び起きないように努めて参ります。

最後に、大学は大変厳しい情勢の中にありますが、

教職員一丸となつて、「三愛主義」「健土健民」の建学の精神・理念を堅持し、酪農学園および酪農学園大学の発展に努めて参りますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



酪農学園産の三元豚を使用したギフトのチラシ

event

第29回ホームカミングデー開催

7月2日（土）、黒澤記念講堂を会場に第29回を迎えるホームカミングデーが開催されました。白樺祭（大学祭）と同時開催しており3年ぶりに80名の方が来場されました。

当日は、12時半から加藤清雄同窓会長の開会挨拶に続き、記念礼拝が朴美愛学園宗教主事の司式で行われました。讃美歌を合唱し聖書朗読後、昨年7月以降に逝去された同窓生、旧職員の芳名を司会の野英二同窓会副会長が紹介。朴宗教主事から「苦難から希望へ」



▲朴美愛学園宗教主事と讃美歌403番を合唱する出席者



▲下村善計氏 [雪印メグミルク (株) 酪農総合研究所所属]



▲江別市の農業、地域おこしについて語る工藤英一氏

のテーマで説教奨励をいただき、酪農讃歌を合唱して記念礼拝を終了しました。

その後、酪農学園を代表して谷山弘行理事長から学園状況や講演紹介のご挨拶がありました。

記念講演第1部は、下村善計氏（大学農業経済学科29期生）により「酪聯（連）の精神を未来につなぐ」と題して行われ、酪連の創業、雪印メグミルクグルー

プの存在意義や志等をスライドにより説明いただきました。最後に「雪印と酪農学園はルーツと精神を同じくする。今後とも、ともに発展していきたい」と結びました。

記念講演第2部は本学名誉教授で農業経済学科4期卒の工藤英一氏から「江別市の農業・地域おこし運動」と題して講演され、江別市の農業や産業は人々のつながりで成り立つと述べ、農業について「就業の年齢や耕地面積」「道内農業ランキング」「農業産出額」「作付面積」の統計を含めて概要を説明されました。最後に「置かれた場所で咲きなさい」（故渡辺和子ノートルダム清心学園理事長の言葉）、「境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる」との言葉を紹介して締めくくられました。

講演後、岩野英知教授（獣医生化学ユニット）からファージセラピーに関するクラウドファンディング協力要請が行われ、その後、野副会長の閉会挨拶により講演会を終了しました。また今年は、傘寿を迎える大学酪農学科1期生の方々12名に母校を訪問いただき、谷山理事長・堂地学長への表敬訪問のあと、記念礼拝にもご出席いただきました。

event

第26回白樺祭開催

7月2日（土）、3日（日）の両日、白樺祭が開催されました。校友会は白樺祭を助成していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年（2020年）はやむなく中止となり、昨年（2021年）はオンラインでの開催でした。これを受けて2018年度から同日開催の同窓会主催「ホームカミングデー」についても2年続けて中止していました。

主催の白樺祭実行委員会は、今年のテーマを「和（なぎ）」と発表しました。これには、風がやむことで水面

が穏やかになることの意味と、新型コロナウイルス感染症が早く収まり以前のような生活に戻れるようにと願い、「平和」の「和（わ）」の意味が込められています。

また、当日は本学オリジナルのアイスクリームやベーコンなど販売、牛舎見学・搾乳体験、羊とのふれあいコーナー、乗馬体験、ブルーグラス研究所の演奏、YOSAKOIサークル“祭”による演舞やお笑いライブなどが行われました。

コロナ禍での開催のため、感染対策を講じての2日



▲開会の挨拶をする白樺祭実行委員会委員長、千田ひかるさん



▲来場者で賑わう模擬店

間でしたが、延べ約6,000人の来場者を迎え、3年ぶりの白樺祭は盛況のうちに閉幕しました。開催にあたり

尽力された白樺祭実行委員会の皆さん、お疲れさまでした。



▲ふわふわの手触り、羊とふれあう親子

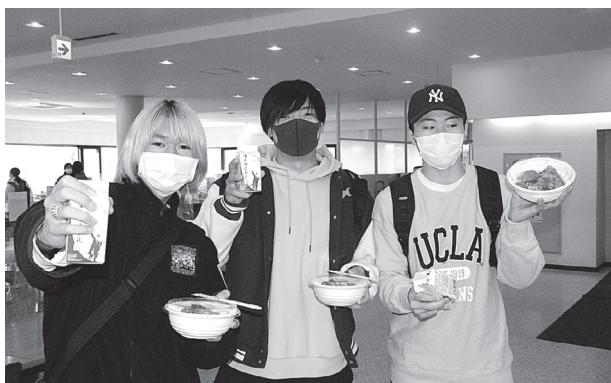
event

準会員（在学生）応援企画として 丼物200円で提供

大学同窓会校友会では在学生を準会員と位置づけおり、応援企画開始から今年で6回目を迎えました。5回目までは6月の開催でしたが今回は10月に移し、酪農学園生協の食堂にて丼物（牛乳付）を200円で提供しました。1日限定250食とし10月4日（火）、12日（水）、20日（木）、28日（金）の4回に分け、合計1,000食を提供するという内容です。新型コロナウイルスの影響で3年振りの開催ですが、10月に感染者が増加していても提供できるよう、今回はテイクアウトで販売することにしました。



▲丼物を求めて並ぶ学生達



▲丼物スタンバイOK

迎えた初日、あいにくの雨模様となり学生に丼物200円の誘導をしても「食堂で食べられないから。」という声が聞かれました。火曜日は元々学生の数が少ないこともあり、初日は250食を完売することはできませんでした。翌週12日（水）は晴天で学生の数もまずまずといったところ、

これならいけると感じていましたが一歩及ばずの結果でした。少しでも多くの学生へ安価で提供したくても利用してもらえないのでは何にもならず、生協にご協力いただき、急遽後半の2回についてはイトイン可能に変更しました。

迎えた20日（木）も晴天となり200円丼物に2回目までとは比べ物にならないほどの学生が列を作っており、店長からの完売しましたという報告に胸をなでおろしました。残る28日（金）も完売。早く日常が戻ればと痛感しました。

獣医周年記念同期会開催報告

■獣医学科4期50周年記念同期会 (2022.7.10)

2020年に開催するはずが、コロナ禍で不参加の連絡が多数届きやむなく開催延期をした。今回は少人数でも希望者だけで開催することになり、しほろ温泉プラザ緑風にて同伴者6組、24人が参加。バージョンアップの2泊3日で校友を深めた。2日目は朝6時から近くの畑でハスカップ狩りをし、牧場でロボット搾乳を見学。ホテルに戻り朝食後、チャーターしたマイクロバスで約1,000頭飼育している肉牛牧場見学、土幌農協に立ち寄り西田参事の案内で所内を視察する等盛りだくさんに十勝を巡った。(代表幹事は飯島勝氏、幹事は小松保文氏、内山信悟氏)



■獣医学科14期40周年記念同期会 (2022.9.24)

京王プラザホテル札幌にて開催。恩師4名を含む58名が参加した。30周年から40周年に至る間、口蹄疫、台風、地震等開催の度に様々な事態に見舞われ、次は新型コロナウイルス感染症。開催断念を余儀なくされた。ようやく開催の40周年は、懐かしい、あるいはすっかり変わった顔や体型の同期が集まり酪大生ビールで乾杯。逝去した恩師への黙祷、三愛賞受賞報告、退職紹介と記念品贈呈等の後、大学を含めた近況報告がなされた。ホテルから閉会時間を催促されるほど時間を忘れ、最後は酪農讃歌を斉唱し解散した。(代表幹事は横山敦志氏、幹事に近藤厚氏、立花徹氏)



■獣医学科6期50周年記念同期会 (2022.10.4)

懸念されていた大型台風の襲来も無く、同期生16名と同伴者2名を迎えて3年ぶりに高知市内の三翠園にて開催することができました。まず既に鬼籍に入った同期生11名に黙祷を捧げ、南繁同窓会長の学園の現況、今後の学園の取り組み方、クラウドファンディング、競争馬への動物虐待等へと話は弾きました。その後思い出話等に花が咲き、いろいろな話題でヒートアップしていきました。

次回2年後は、東京は墨田川の川遊びだそうです。2年はすぐに来ますので次回幹事の方、準備をよろしくお願いします。(今回は代表幹事に篠原修氏、幹事は渡邊正信氏)



■獣医学科5期50周年記念同期会 (2022.10.18)

熱海市のホテル・リゾートピア熱海にて開催。参加したのは同期生13名と同期生の奥様1名の合計14名で、コロナ禍のためいつもの半数程度だった。参加者が少ないため一人一人長めの近況報告が行われたが、むしろ病氣自慢といった方が正しいかも知れない。話を聞かなければ見た目は健康な人たちがばかりであった。あっという間に時間は過ぎ酪農讃歌合唱で終了。二次会はカラオケで盛り上がった。

翌日、ロビーで最後に記念撮影を行い、別れを惜しみつつお互いの健康を祈り、次回長野での再会を誓い帰路についた。(代表幹事に今井賢太郎、幹事は今井克幸、重永洋)



2019年度～2021年度 定年退職者（教員）

2019年冬頃からコロナ禍となり、本来であれば定年退職を迎えるにあたり最終講義や退職記念祝賀会が開かれますが感染を避けるため、中止せざるを得ない状況でした。本誌でも退職記念祝賀会が開催された模様は掲載しておりましたが、3年間はほぼ開催されていないため、ここで退職された先生のお名前をご紹介します。

～2019年度～

福本 真一郎 教授（獣医学類）
發地 喜久治 教授（循環農学類）
岡島 毅 教授（循環農学類）

3名

～2020年度～

丸山 明 教授（循環農学類）
寺脇 良悟 教授（循環農学類）

2名

～2021年度～

押谷 一 教授（環境共生学類）
内田 郁夫 教授（獣医学類）
大杉 剛生 教授（獣医学類）
中出 哲也 教授（獣医学類）
川本 哲准 教授（獣医学類）
北澤 多喜雄 教授（獣医保健看護学類）
菅野 美樹夫 教授（獣医保健看護学類）

7名

長い間お疲れ様でした。

新しい人生をこれまで以上に楽しみ、心豊かな充実した毎日をお過ごしください。

健康に留意され、益々ご活躍されることをお祈りいたします。



大学合同周年記念同期会開催のお知らせ

新型コロナウイルス感染は終息に至らず、2020年度～2022年度までの開催については延期となりました。

そのため、2023年度は4期合同での開催を予定しています。但し、2023年度についても感染状況により延期または中止となる可能性がございます。その際は酪農学園同窓会校友会のホームページでお知らせいたしますのでご了承願います。

また、大学合同周年記念同期会はホームカミングデー開催日の夜に開催しており、ホームカミングデーは2018年から白樺祭（7月第1土曜日）と同日開催しております。

しかし、2023年度は酪農学園創立90周年により、ホームカミングデーは学園との合同開催となる予定です。これにより日程は9月下旬を予定しておりますので間違えのないようご注意ください。

対象の皆様には7月初旬頃ご案内文書を郵送する予定です。4期同時開催の機会に声を掛けあい旅行を兼ねて、懐かしい母校や仲間会いに来ませんか。

■校友会ホームページ（<https://kouyukai.rakuno.org>）

次のご案内はいつもの4倍となりますので対象の学科・期をご確認ください（以下の通りです）

酪農学科

【7、8、9、10、17、18、19、20、27、28、29、30、37、38、39、40、47、48、49、50期】

農業経済学科

【6、7、8、9、16、17、18、19、26、27、28、29、36、37、38、39、46、47、48、49期】

食品科学科

【9、10、11、12、19、20、21、22期】

食品流通学科

【13、14、15、16期】

経営環境学科

【9期】

地域環境学科

【9、10、11、12期】

環境マネジメント学科

【2、3、4、5期】

生命環境学科

【2、3、4、5期】

第30回ホームカミングデー開催予定

日時 2023年9月下旬
会場 黒澤記念講堂 他
内容 記念礼拝（物故者追悼含む）
記念講演 等

**2022年度
酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会開催**

5月13日（金）午後6時から新さっぽろアーケスティホテルにて、コロナ禍となって以来3年振りに酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会が開催され、理事・代議員他20名が出席した（委任状15名）。

議事は加藤清雄事務局長の司会で進行し、野英二会長から開会挨拶が行われた。恒例により会長が議長を務め、議事録署名人には岡本英竜理事、岡本吉弘代議員が事前に選出された。

議事は第1号として2021年度事業報告、収支決算、監査報告があり、第2号として2022年度事業計画と収支予算がそれぞれ事務局から提案され、承認された。その他ホームカミングデーの運営について大学校友会が主体となって運営してきたが、酪農学園の全体行事のため、酪農学園同窓会に運営主体を移行することが提案され、承認された。

次に獣医保健看護学類からの代議員選出について、1名追加し3名（各学類5名体制）とする案が提案され、承認された。また理事についても現在不在（各学類3名体制）のため意見があり、追加選出が検討された。

最後に志田和仁副会長、上村篤正副会長から挨拶が行われ、閉会となった。コロナ禍において会議は開催されたものの懇親会については今回も中止せざるを得ない状況のため、弁当を用意し持ち帰りいただくこととした。

コロナ禍で中止となった年度の議案については書面議決で行われてきた。今年度は役員改選後初の対面開催だったが、和やかな雰囲気で行うことができた。



▲開催にあたり挨拶をする野英二校友会会長



物故者 2021年4月～2022年3月

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

生出 正実（酪農・1期）	佐々木和弘（酪農・1期）
麓 悠（酪農・6期）	竹内 雅彦（酪農・20期）
森熊 伸夫（農経・3期）	土田 孝幸（農経・8期）
末田 洋一（獣医・4期）	奥本 利美（獣医・8期）
後藤 忠彦（獣医・9期）	荻野 好彦（獣医・12期）
森村 祐子（獣医・12期）	鎌塚 義治（獣医・13期）
片岡 美葉（環境・4期）	敬称省略

会計報告 2021年度決算および2022年度予算について下記のとおり承認された

収 入 (単位：円)

項 目	2022年度予算	2021年度決算	2021年度予算	備 考
前年度繰越金	5,837,571	10,079,605	10,079,605	
新同窓会費	22,770,000	26,070,000	26,010,000	30,000円×503名 (大学院、転学類含む) 60,000円×183名 (獣医大学院含む)
同 窓 会 費	0	45,000	0	15,000円×3名
預 金 利 息	1,500	1,114	5,000	
助 成 金	10,000	0	10,000	理事代議員会中止
ホームカミングデー分担金	200,000	0	200,000	ホームカミングデー中止
獣医同窓会費返還預り金	0	210,000	0	30,000円×7名
雑 収 入	0	0	0	
合 計	28,819,071	36,405,719	36,304,605	

支 出 (単位：円)

項 目	2022年度予算	2021年度決算	2021年度予算	備 考
校友会事業費	13,400,000	11,682,289	13,020,000	
（入学式関係費）	1,700,000	1,596,670	1,700,000	バスケース、セット作業代等
（卒業式関係費）	6,400,000	5,686,175	7,620,000	記念品他（卒業記念パーティー中止）
（在学生関係費）	1,000,000	1,603,714	1,000,000	食の支援開催、白樺祭等
（同窓生関係費）	300,000	0	0	在庫対応（訪問者減のため）
（ホームカミングデー関係費）	300,000	0	0	ホームカミングデー中止
（会報関係費）	3,000,000	2,795,730	2,000,000	印刷代、封筒作成料、発送料
（周年記念同期会退職記念祝賀会助成金）	700,000	0	700,000	延期及び中止
同窓会支部活動助成費	5,398,833	5,754,667	5,764,167	通信・活動費助成
獣医同窓会活動費	3,591,000	5,244,000	5,187,000	28,500円×184名
代行徴収業務委託手数料	1,138,500	1,305,750	1,300,500	手数料5%（酪農学園）
同窓会費返還金	0	1,730,000	0	退学者 69名分 (25,000円×68名、30,000円×1名)
獣医同窓会返還金	0	385,000	0	退学者 (55,000円×7名)
校友会運営費	4,000,200	3,466,442	3,750,200	
（会 議 費）	150,000	15,000	100,000	理事会開催 理事・代議員会中止 (書面議決)
（同窓会負担金）	640,200	640,200	640,200	同窓会へ
（人 件 費）	2,600,000	2,455,850	2,600,000	事務局長手当含む
（通 信 費）	60,000	45,491	60,000	電話・郵送料等
（旅費交通費）	60,000	5,980	60,000	交通費
（福利厚生費）	10,000	10,000	10,000	慶弔費
（消 耗 品 費）	400,000	234,851	200,000	事務用品、ポーチライト等
（雑 費）	80,000	59,070	80,000	振込手数料
基金繰入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	基金へ（同窓生会館施設管理費）
予 備 費	0	0	6,282,738	
小 計	28,528,533	30,568,148	36,304,605	
当期余剰金	290,538	5,837,571	0	
合 計	28,819,071	36,405,719	36,304,605	

(単位：円)

基 金	金 額
周年事業費	17,343,477
卒業記念事業費	54,460,000
同窓生会館施設管理費	3,000,000

